

## 第 427 回集談会

1. 日時：2011 年 9 月 26 日（月）16:30～
2. 場所：カンファレンスルーム（ウェリタス5階）
3. 座長：臨床分析化学教室 講師 大野賢一先生(内線3911)
4. 演者：分子構造解析学教室 講師 八百板 康範(内線3916)
5. 演題：テルペノイド類の単離操作時における化学的安定性について
6. 要旨：テルペノイドは，炭素数 5 個のイソプレン単位に由来する膨大な数の化合物群であり，構造的にも多様性に富んでいる．しかし，化学的に不安定なものも多く，しばしば単離操作時に変化体の生成が認められる．演者は，キク科植物のメタカラコウの根の成分である 5,6-dimethoxy-2-isopropenylbenzofuran (1) の単離操作時に，1 の二量化，二量化体の自動酸化，自動酸化体のホモリシス，ヒドロペルオキシドのエポキシドへの分子内転位ならびに溶媒分子の置換反応に起因すると推定される変化体の生成を確認した．また，マルバダケブキの根のビサボラン型セスキテルペノイド成分である ligulanol A (2) を冷蔵庫中に放置したところ，2 の側鎖部分におけるエポキシエステル転位反応に由来する変化体を確認された．本集談会では，これら変化体の化学構造と生成機構に関する考察を中心として，テルペノイド類の単離操作時における化学的安定性について述べる．